



AUE News

2010年 10月15日

第 2 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 行事予定(10月15-30日) | ・緊急全学集会 |
| トピックス | ・前田教授が角川源義賞受賞 |
| ・国立大学理学系学長会議を開催 | ・実習園で稲刈り |
| ・小泉八雲展で本学資料展示 | ・外国人留学生との交流会 |
| ・学生向けポートフォリオ説明会 | お知らせ・報告・投稿 |
| ・井戸准教授がフィンランドからの帰国報告 | ・千葉国体結果報告 |
| ・COP10 イベントに富士山3D 地図を展示 | ・教官演奏会 |

行事予定(10月)

- 15日(金) 教職大学院運営協議会(10:00~ 第五会議室)
- 19日(火) 役員部局長会議(13:00~ 学長室)
- 20日(水) 財務委員会(13:30~ 第五会議室)
教員人事委員会(15:30~ 第五会議室)
- 26日(火) 役員会(13:00~ 学長室)
- 27日(水) 経営協議会(10:00~ KKRホテル名古屋)
- 28日(木) カリキュラム専門委員会(16:40~ 第二会議室)

トピックス

国立大学理学系学長会議を開催(10/1, 2)



「平成22年度国立大学理学系学長会議」が10月1日(金), 2日(土), 愛知県犬山市のホテルで開催された。会議には茨城, 群馬, 東京海洋, 豊橋技術科学, 奈良教育, 奈良女子, 愛媛, 総合研究大学院, 福岡教育, 愛知教育の各大学学長, 情報・システム研究機構機構長の計11人が出席, 2008年ノーベル物理学賞受賞者の益川敏英氏(名古屋大学KMI素粒子宇宙起源研究機構長)らの講演に耳を傾け, 意見交換した。

当番校である本学の松田正久学長が歓迎と開会のあいさつを行った後, 新潟大学企画戦略本部女性研究者支援室特任助教の中野享香氏が「ポスト



ドク問題について」をテーマに講演。中野氏はポストドクター「ポストドク」の定義, ポストドク・博士課程修了者に関する調査などの多くのデータを示しながら解説。ポストドクは約1万8000人(2008年度)いるとされ, 分野別, 博士課程修了直後の職業, 研究への貢献度, 科学技術の発展とポストドクなどについて現状や課題を分析。



「大学教員の数は増えているが, ほとんどは教授で, ポストドクが入る余地

はない。企業の博士課程修了者採用もほとんどない。5年経っても6割以上がポスドクのままで、この状態が年々長期化する傾向がある」と述べ、理解を求めた。



続いて講演した益川氏は自身の子ども時代、家族の思い出を語り、学問、科学について持論を展開。「父親は一時、職人6人と洋家具を作っていた。大人の世界で育ち、言葉の言語感覚が身に付いた。電気技師になりたかった父は銭湯への行き帰りに知識を小2の私に自慢した。本との出会いは重要で1955年『坂田モデル』が発表され、ガーンときた。科学は19世紀に終わったと思っていたら、ヨーロッパならぬ名古屋で研究が進んでいた。学問は成果が社会に還元されることで、科学はこうしたらこうなるという必然性を解き明かし、人類により多くの自由を準備することだと思う。科学の発展はいろいろなことを消していき、消しきれなかったものが科学的真実となる。学生は一つのことを深く知ることも大切だが、複数のことを軽く知ることであるような選択肢の中で第三の道に進めるかもしれない」などと話は若者の育成論にも及んだ。それぞれの講演では質疑応答も行われ、熱い議論が繰り広げられた。

一行はホテルに宿泊し、2日は近くの京都大学霊長類研究所を訪問。松沢哲郎所長から研究成果の説明を受けるとともに、チンパンジーの屋外施設を視察した。

小泉八雲展で本学資料展示(10/2-11/14)

本学附属図書館が所蔵する資料が、横浜市の神奈川県神奈川近代文学館へ貸し出され、10月2日(土)に開幕した「小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)展」で一般公開されている。

同展は、ラフカディオ・ハーン=小泉八雲の生誕160年、来日120年を記念して、同文学館と神奈川文化振興会が主催する展覧会。『知られぬ日本の面影』などの紀行文学、『怪談』など民間伝承や古典に基づく再話文学など、急速な近代化とともに失われていく古き良き日本の伝統、習俗、信仰への哀愁が込められ、今日も多くの読者に愛されるハーン作品にスポットを当てようと、14年余の日本での日々を中心に、草稿、書籍、初版本、遺愛品、写真など約400点によって、54年の生涯と作品を紹介している。

本学では、主催者の要請を受けて書籍2点を出品。『Two Years in the French West Indies』はハーンと親交があった帝大教授チェンバレンへの献呈本(1890年4月10日付)。もう一冊は『Glimpses of Unfamiliar Japan 2 vols』(知られぬ日本の面影 第2巻)で、チェンバレンによる訂正書き込みが入った資料。(写真は附属図書館で撮影)



展示は11月14日(日)まで。10月23日(土)には、俳優・佐野史郎氏による記念朗読会、31(日)には小泉八雲曾孫で島根県立短期大学教授・小泉凡氏による記念講座などが予定されている。

学生向けポートフォリオ説明会(10/6)

免許法改正により必修となった「教職実践演習」の受講に必要な「ポートフォリオ」の説明会が10月6日(水)午後1時から講堂で行われた。

説明会の対象は、改正法が適用される2010年入学の学部1年生946人で、この日はうち910人余が出席した。

ポートフォリオは、授業や自主学修により学んだことを後日振り返られるよう、レジュメやレポートなどの資料(学修物)を整理して電子データとして保存すること。4年生の後期に開講される教職実践演習の授業を履修するため、それまでの学修を振り返り「自己評価表」を作成。その際に成績評価とポートフォリオを見直す必要がある。ポートフォリオがなぜ必要か、どのよう

なものを記録しておくべきかなど、システムの運用予定などを教務課の加藤信也課長補佐が説明した。

また、説明会に先立って、国立大学予算にかかわる「パブリックコメント」の説明が、岩崎公弥理事（教育担当）から行われた。運営費交付金の削減による危機的状況を訴え、政府が設定した「元気な日本復活特別枠」要望実現のため国民のニーズを集約するためのパブリックコメントへの協力を求めた。多くの学生が、配布された用紙に記入し、その場で 800 余の応募が集まり、8 日（金）に他からの応募も合わせて、約 850 通が内閣府へ郵送された。



井戸准教授がフィンランドからの帰国報告（10/8）

昨年の秋から 1 年間、サバティカルイヤーでフィンランドのヘルシンキで研究活動を行っていた井戸真伸准教授（美術教育）がこのほど帰国し、10 月 8 日（金）には学長室に松田正久学長を訪ね、帰国のあいさつをした。



フィンランドでは、ヘルシンキ芸術大学で Visiting Professor として研究活動すると同時に、隣接する陶磁器メーカーの「ARABIA 社」とガラスメーカー「iittala 社」のゲストアーティスト、デザイナーとしてデザイン活動も行った井戸准教授。「iittala 社に大学があって、デザインを学ぶ環境としては最高でした。フィンランドの人たちは日本への造詣が深く、日本に憧れも抱いていました。僕らが向こうに憧れるように。

1 年はあっという間。行ってみて分かった部分もありますが、まだまだ分からない部分も。もう 2, 3 年いたかったですね」と現地での充実した活動を振り返った。

また、井戸准教授は ARABIA 社のパンフレットを松田学長に渡して、フィンランドでの大学と企業の共同開発や、日本人の感性にも通じる北欧のデザイン、現地の人々の暮らしぶりなどについても報告し、しばし歓談。

松田学長は「1 年間、感性を磨いてきた創造力を発揮して、いいものを創って、これからうちの大学の名を高めてください」と今後の活躍にエールを送った。

COP10 イベントに富士山 3D 地図を展示(10/11-29)

国連の会議「生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）」が 10 月 11 日（月）に名古屋市で開幕。会場周辺では合わせて「生物多様性交流フェア」が開催され、本学の三宅明教授（理科教育）が作成した富士山の 3D 地図が展示されている。

展示場所は、COP10 会場、名古屋国際会議場の東側の熱田神宮公園内に設けられた同フェアのフェスティバルゾーン内、静岡県ブース。「富士山」をテーマに、富士山に生息する哺乳類や鳥類などの野生動物を紹介するパネルと共に、富士山の 3D 地図が掲示されている。



青と赤のカラーフィルムを左右に張ったメガネを通して見ると、富士山や箱根山などが浮き上がって、地面が立体的に見えるユニークな地図は、来場者から「本当、3D だ」「凹凸が分かりやすい」と人気を呼んでいる。

ブースを出展した静岡県環境局自然保護課の繁村光良さんは「富士山は日本の自然環境の象徴。まず、3D 地図で興味を持ってもらえます。立体的で位置関係も分か

りやすいし、多角的に見てもらえます」とアピール。

展示は10月29日(金)まで。来年1月1日(土)～4月4日(日)には静岡市の東海大学自然史博物館での「富士山の自然展」で、その後は全国の火山関係の博物館を巡回の予定。

緊急全学集会(10/12)



国立大学運営費交付金の削減問題に全学を挙げて取り組もうと10月12日(火)12時45分から講堂で緊急全学集会が開かれた。

テーマは「愛知教育大学の危機～授業料免除がなくなる!?」。国の来年度予算で特別枠要望額が大幅に削減されれば、国立大学は本学も含めて運営の予算が大幅な削減となり、大変な危機に陥ることになる。特に要望枠に盛り込まれた授業料免除(本学分1億3900万円=260人分)や奨学金

が保障されず、教育の機会均等を逸することになりかねないとして、教職員や学生に国民のニーズとしての「パブリックコメント」への積極的な応募を求めるため急遽、開催された。

集会には教職員や学生ら約160人が参加。松田正久学長が予算要望の状況を説明し、「国立大学は学びたいという強い意志のある学生に教育の機会を与えなければならない。1人でも2人でもパブリックコメントを出してほしい」と、応募への協力を呼び掛けた。

前田教授が角川源義賞受賞(10/12)

国文学・国史学の優れた学術書に贈られる「角川源義賞」の第32回受賞作品に、本学の前田勉教授(社会科教育)の著書『江戸後期の思想空間』(ペリカン社発刊)が選ばれ、10月12日(火)に発表された。

同賞は、角川書店の創業者で民俗学者・国文学者・歌人の角川源義を記念して、1979(昭和54)年に創設された学術賞。角川文化振興財団が主催し、歴史研究と文学研究の2部門があり、民間における学術賞として高く評価されている。今回は歴史研究部門での受賞で、本学教員としては1983(昭和58)年の樋口芳麻呂教授(現名誉教授)以来。

受賞作『江戸後期の思想空間』は、18,19世紀における儒学・国学・蘭学をはじめとしたさまざまな思想の交錯を“会読”という新たな読書法の出現に注目して捉え、「日本」「天皇」という概念の発生と展開を個々の思想家の内面をたどることで探った意欲作。2003年から2008年の研究報告書をまとめて、加筆・修正をして2009年に発行。学術書でありながら、一般にも分かりやすく書かれている。



前田教授は13日(水)午前、「受賞の知らせは突然でした。これまでこの賞は歴史の研究者に贈られていたので、まさか受賞できるとは」と喜びとともに驚きを隠せない様子。「これまであまり紹介されなかった会読から、いろいろな思想が生まれてきた。読書会で議論しながら、新しい思想が生まれ、明治時代の自由平等につながった。学内で発表した論文が、本になったことで、いろいろな人に読んでもらえるようになった。今後もこれまで通り仕事を続けていきたい」と話した。

授賞式は12月6日(月)、東京都千代田区の東京會館で行われ、賞状・記念品と副賞100万円が授与される。

実習園で稲刈り(10/13)

実りの秋を迎え、本学キャンパスの実習園でも10月13日(水)に田んぼの稲刈りが行われた。



秋晴れのこの日、広さ約 50 坪の水田の餅米の稲が稲刈り機で順序よく刈り取られ、稲束にまとめられた。たわわに実ったように見える稲穂も、今年は猛暑やイモチ病の発生、スズメやヌートリアによる被害などで、作柄は「例年より出来がよくないね」と、実習園の管理をする長友武志さん。それでも「できるだけ農薬を使わずに作っているから、おいしいよ」と、収穫に笑顔を見せた。

刈った稲は翌 14 日（木）に、はさ掛けをして乾燥、

およそ 2 週間後に脱穀される。田植えなどは技術専攻の学生たちが実習で行ってきたが、稲刈りは授業時間の関係で今年は長友さんらが担当。収穫した餅米は、12 月最後の授業で恒例の餅つきをして味わう予定。

園内では通常の米もアイガモ農法による有機栽培が行われており、そちらは今月下旬に技術の授業で学生たちが稲刈りをする。



外国人留学生との交流会（10/13）



本学に留学中の外国人留学生と教職員、学生との交流会が 10 月 13 日午後 5 時 30 分から、大学会館ホールで行われた。

留学生との交流会は 10 月に歓迎会、3 月に送別会として、年に 2 回行われる恒例行事で、この日は 100 人余が参加した。現在、本学では特別聴講生、大学院生、研究生として、計 87 人の外国人留学生が日本語や教育学などを学んでいる。

冒頭、松田正久学長があいさつ。「今年の春には交流協定締結校に中国の東北師範大学も加わり 18 校になりました。今後もアフリカや南米に協定校を増やして、とりあえず 100 人受け入れが目標。留学生の皆さんは、国に帰り愛教大に来てもらえるように伝えてください。日本の友達をつくって、日本の伝統文化を学び、愛教大でネットワークを広げてください。今日は食べて、飲んで、楽しんでください」。

続いて、日本語教育の北野浩章准教授の発声で乾杯。今年度来日した 6 人の留学生が紹介され、リラックスした雰囲気の中で、教職員や在學生と歓談し、交流を図った。



お知らせ・報告・投稿

千葉国体結果報告

千葉県で第 65 回全国国民大会「ゆめ半島千葉国体」が 9 月 25 日（土）～10 月 5 日（火）に開催され、本学陸上部部員が健闘した。

陸上競技は 10 月 1 日（金）～5 日、千葉市の千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で行われた、本学からは選手 4 人とコーチ 1 人が参加。結果は次のとおり。

- 成年男子 400 ㍓ 中野弘幸（愛知代表） 6 位
- 成年女子走幅跳 渡邊千洋（静岡代表） 5 位
- 成年女子棒高跳 渡邊みなみ（岐阜代表） 10 位
- 井上裕生（福井代表） 記録なし

また、木越清信講師が岐阜県選手団のコーチとして参加した。

教官演奏会 (11/5)



本学音楽教育講座の教員が出演する「愛知教育大学教官演奏会」が11月5日(金)、名古屋市中区・伏見の電気文化会館「ザ コンサートホール」で開催される。

今回は、久々に講座の教員全員が出演しての演奏会で、声楽、ファゴット、ピアノ、そしてハーディ・ガーディという珍しい民族楽器も登場する。

時間は、午後6時30分開場、同7時開演。

入場料は、一般3000円、学生1500円。なお、本学教職員、学生の場合、招待あり。

連絡・問い合わせは、武本京子教授の下記アドレスへ。

ktakemo@aecc.aichi-edu.ac.jp

編集後記

「AUE News」第2号は月半ばの15日発行となりました。これまでより、ゆったりスペースですから、今後は“話題”の教職員や学生さんたちのインタビューや、学内の季節の風景も盛り込んでいきたいと思います。「え～、こんな人がいたの」「こんな場所があったの」と意外に知られていない、愛教大の魅力を発掘&発信していきたいと思います。投稿や情報もお待ちしています。という訳で、今回はキャンパスで見つけた秋の味覚をパチリ。(K)



投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール: kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者: 総務担当理事 折出 健二